

II 調査結果の要約

II 調査結果の要約

1. 区民の定住性

(1) 居住年数

居住年数について聞いたところ、「5年未満」(29.3%)が3割弱と最も高く、これに「5年以上10年未満」(16.2%)を合わせた『短期居住者』(45.5%)は4割台半ばとなっている。次いで「10年以上20年未満」(24.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。また、「30年以上」(10.5%)と「生まれてからずっと」(7.3%)を合わせた『長期居住』(17.8%)は1割台半ばを超えている。

(2) 定住意向

定住意向について聞いたところ、「当分はここに住むつもり」(52.2%)が5割強と最も高く、これに「永住するつもり」(29.6%)を合わせた『定住意向』(81.8%)は8割強となっている。一方で、「近いうちに区外に転出するつもり」(4.4%)と「1年以内に区外に転出するつもり」(1.9%)を合わせた『転出意向』(6.3%)は1割未満となっている。

(2-1) 定住意向の理由

定住意向の理由について聞いたところ、「交通網が充実していて便利だから」(84.9%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで「治安が良いから」(60.7%)が約6割、「勤務先に近いから」(44.8%)が4割台半ば近く、「千代田区が好きだから」(44.2%)が4割台半ば近く、「医療や福祉などの質が高いから」(37.1%)が3割台半ばを超え、「文化的な施設やコンサート会場などが近いから」(31.9%)が3割強、「教育や学習の機会や場が充実しているから」(26.2%)、「緑が豊かだから」(26.2%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

(2-2) 転出意向の理由

転出意向の理由について聞いたところ、「もっと家賃や物価の安いところに住みたい」(23.8%)が2割台半ば近くと最も高く、次いで「もっと広い住宅に住みたい」(20.6%)が約2割と高くなっている。「その他」についての具体的な記述としては「実家から出る必要があるから」、「前から転出が決まっていた」といった意見があった。

2. 居住環境評価

(1) 周辺的生活環境評価

周辺的生活環境評価について聞いたところ、「良い」(89.9%)と「やや良い」(8.0%)を合わせた『良い』が最も多い項目は“交通の便” (97.9%)が9割台半ばを超え、一方で「やや悪い」(21.1%)と「悪い」(10.6%)を合わせた『悪い』は“騒音・振動” (31.7%)が3割強となっている。

(2) 周辺の居住環境の満足度

周辺の居住環境の満足度について聞いたところ、「満足している」(52.4%)が5割強と最も高く、これに「大変満足している」(24.0%)を合わせた『満足』(76.4%)が7割台半ばを超えている。一方で、「不満である」(3.7%)と「大変不満である」(0.8%)を合わせた『不満』(4.5%)が1割未満となっている。

(2-1)「周辺の生活環境評価」と「周辺の居住環境の満足度」の相関分析

“景観・まちなみ”(0.50)、“安全・安心なまち”(0.44)・“ごみ出し・リサイクル活動”(0.44)・“建物の周囲の空間・日当たり”(0.41)の4項目は相関係数(r)が0.4を超えており、居住環境の満足度と中程度の相関がみられた。

3. 施策の満足度・重要度

(1) 施策の満足度・重要度

施策の満足度について聞いたところ、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』は“保健・衛生対策”(59.7%)が6割弱と最も高くなっている。一方で、「やや不満」と「不満」を合わせた『不満』は“住宅対策”(26.3%)が2割台半ばを超えと最も高くなっている。

「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』は“防災対策”(93.7%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。一方で、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた『重要でない』は“地域力の向上”(14.4%)、“商工・観光・消費生活”(13.3%)が1割台半ば近くと高くなっている。

4. 区の施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

力を入れてほしい施策について聞いたところ、「防災対策」(46.8%)が4割台半ばを超えと最も高く、次いで「高齢者施策」(31.8%)、「環境対策」(31.6%)、「学校教育の充実」(25.0%)と続いている。

5. 区の施設への要望

(1) 整備・充実すべき施設

整備・充実すべき施設について聞いたところ、「公園・児童遊園・広場」(37.1%)が3割台半ばを超えと最も高く、次いで「スポーツ施設」(34.9%)、「図書館」(25.8%)、「高齢者福祉施設」(25.3%)、「児童館・児童センター・学童クラブ・保育施設」(22.0%)と続いている。

6. 広報活動

(1) 区政情報の取得媒体

区政情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田(区の広報紙)」(76.4%)が7割台半ばを超えと最も高く、次いで「区ホームページ」(39.8%)が4割弱、「ちよだ区議会だより」(区議会の定例会の概要や議案の審議結果などを掲載) (27.3%)が2割台半ばを超え、「区が発行するパンフレットやチラシ、ポスター」(22.7%)が2割強と高くなっている。

(2) 新聞購読の有無

新聞購読の有無について聞いたところ、「自宅で新聞を購読していない」(68.5%)が7割近くと最も高く、次いで「自宅で新聞を購読している」(26.4%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

(3) 広報千代田の読書の有無

広報千代田の読書の有無について聞いたところ、「読んでいる」(81.2%)が8割強と高くなっている。一方で、「読んでいない」(17.6%)が1割台半ばを超えている。

(3-1) 広報千代田の読書状況

広報千代田の読書状況について聞いたところ、「多くのページに目を通す」(46.3%)が4割台半ばを超えと最も高く、「必要・関心のあるところだけ読む」(44.1%)を合わせた『内容を見ている』(90.4%)が約9割となっている。

(3-2) 広報千代田の読書内容

広報千代田の読書内容について聞いたところ、「特集」(76.5%)が7割台半ばを超えと最も高く、次いで「区政インフォメーション」(61.4%)が6割強、「生活ほっとライン」(44.5%)が4割台半ば近く、「いきいきライフ」(35.3%)が3割台半ば、「のびのび子育て」(29.9%)が3割弱となっている。

(3-3) 広報千代田を読んでいない理由

広報千代田を読んでいない理由について聞いたところ、「掲載記事に興味のあるものが少ないから」(40.1%)が約4割と最も高く、次いで「広報千代田が発行されていることを知らなかったから」(31.1%)が3割強と高くなっている。

7. 区政情報の把握

(1) 東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無

東京ケーブルネットワークの視聴環境の有無について聞いたところ、「ない」(74.7%)が7割台半ば近くと高く、一方で、「ある」(23.8%)が2割台半ば近くとなっている。

(2) 区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験

区が制作した東京ケーブルネットワークの番組の視聴経験について聞いたところ、「1回も見たことがない」(81.2%)が8割強と最も高くなっている。

(3) YouTubeの視聴環境の有無

YouTubeの視聴環境の有無について聞いたところ、「見ることができる」(93.3%)が9割台半ば近くと最も高くなっている。

(4) 区公式YouTubeチャンネルの視聴経験

区公式YouTubeチャンネルの視聴経験について聞いたところ、「1回も見たことがない」(88.5%)が9割近くと最も高くなっている。

8. 町会・ボランティア

(1) 地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況

地域の活動(町会やボランティア活動など)への参加状況について聞いたところ、「よく参加している」(9.3%)、「何回か参加したことがある」(16.5%)、「参加したことは無いが、関心はある」(37.3%)を合わせた『参加経験または関心がある』(63.1%)は6割台半ば近くとなっている。一方で、「参加したことが無く、あまり関心も無い」(34.7%)が3割台半ば近くと最も高くなっている。

(2) 町会・ボランティア活動で力を入れて欲しい分野

町会・ボランティア活動で力を入れてほしい分野について聞いたところ、「地域コミュニティの形成」(33.6%)が3割台半ば近くと最も高く、次いで「特に無い」(27.9%)が2割台半ばを超え、「地域住民と町会との交流促進」(27.8%)が2割台半ばを超え、「行政との連携・協働の促進」(25.8%)が2割台半ば、「企業との連携・協働の促進」(24.6%)が2割台半ば近く、「区内大学、専修学校・各種学校との連携の推進」(23.3%)が2割台半ば近くと高くなっている。

9. 食中毒予防などの食品衛生

(1) 飲食店での肉料理の生食

飲食店での肉料理の生食について聞いたところ、「生または半生で食べていない」(54.2%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「牛肉(ロース、ヒレ等の筋肉、タン、ハラミ、レバーなど)」(38.2%)が4割近くと高くなっている。

(2) 家庭での食中毒予防

家庭での食中毒予防について聞いたところ、「消費期限や賞味期限の確認」(80.8%)が約8割と最も高く、次いで「保存方法の確認」(64.5%)が6割台半ば近く、「食べる前においや色を確認」(60.5%)が約6割、「肉料理は中心部までよく加熱する」(59.1%)が6割弱、「生で食べる野菜やくだものを先に、肉や魚は最後に切る」(43.8%)が4割台半ば近く、「食材は使用前によく洗う」(40.1%)が約4割、「肉や魚は他と分けてポリ袋などで保存」(34.2%)が3割台半ば近くと高くなっている。

10. 感染症、疾病予防対策

(1) 手洗いの方法

手洗いの方法について聞いたところ、「流水と石鹸」と回答しているのは、“生肉・生魚を扱ったあと”(87.0%)と最も高く8割台半ばを超えとなっており、次いで“帰宅時”(86.7%)が8割台半ばを超えと高くなっている。

11. 自殺対策

(1) 千代田区自殺対策計画の認知度

千代田区自殺対策計画の認知度について聞いたところ、「知らなかったが関心がある」(66.9%)が6割台半ばを超えと最も高く、「知らなかったし関心がない」(26.7%)を合わせた『知らなかった』(93.6%)が9割台半ば近くとなっている。一方で、「知っていて関心がある」(3.9%)、「知っているが関心がない」(1.6%)を合わせた『知っていた』(5.5%)は1割未満となっている。

(2) ストレス等の有無

ストレス等の有無について聞いたところ、「やや感じた」(40.0%)が4割と最も高く、「とても感じた」(19.6%)を合わせた『感じた』(59.6%)は6割弱となっている。一方で、「あまり感じていない」(23.4%)と「感じていない」(16.1%)を合わせた『感じていない』(39.5%)が4割弱となっている。

(3) 悩みを相談できる人の有無

悩みを相談できる人の有無について聞いたところ、「いる」(82.8%)が8割強と高くなっている。

(3-1) 悩みを相談する相手

悩みを相談する相手について聞いたところ、「家族や親族」(83.6%)が8割台半ば近くと最も高く、次いで「友人や同僚」(62.9%)が6割強と高くなっている。

(3-2) 相談内容

相談内容について聞いたところ、「勤務関係の問題（仕事の不振、職場の人間関係、長時間労働 等）」(46.1%)が4割台半ば超えと最も高く、次いで「病気・健康の問題（自分の病気の悩み、身体の悩み、心の悩み 等）」(37.5%)が3割台半ば超え、「子育ての問題」(25.2%)が2割台半ば、「家庭の問題（家族関係の不和）」(23.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。

その他に具体的な記載をした人は20名おり、主な意見として「相続」、「夜間の騒音、住環境が悪化していることについて」、「上記悩みはなし。食べたいものの悩み程度。ストレスは文句がほとんど」、「色々含め人生観」などが挙げられている。

(4) 睡眠時間

睡眠時間について聞いたところ、「ほぼ足りている」(39.5%)が4割弱と最も高く、「十分足りている」(19.5%)と合わせた『足りている』(59.0%)は6割弱となっている。一方で、「やや不足している」(34.2%)と「まったく足りていない」(6.2%)を合わせた『足りていない』(40.4%)は約4割となっている。

(5) 熟睡できないことの有無

熟睡できないことの有無について聞いたところ、「ときどきある」(39.6%)が4割弱と最も高く、「よくある」(21.8%)と合わせた『ある』(61.4%)が6割強となっている。一方で、「めったにない」(27.2%)と「まったくない」(9.8%)を合わせた『ない』(37.0%)が3割台半ば超えとなっている。

(5-1) 眠れない日が続いた時の対応

眠れない日が続いた時の対応について聞いたところ、「入浴や運動をする」(35.7%)が3割台半ばと最も高くなっている。

また、具体的な行動ではないが、「何もしない」(37.0%)も3割台半ば超えと高くなっている。

(6) 自分の居場所がないと感じることの有無

自分の居場所がないと感じることの有無について聞いたところ、「あまり感じない」(41.4%)が4割強と最も高く、「まったく感じない」(40.3%)と合わせた『感じない』(81.7%)が8割強となっている。一方で、「いつも感じる」(3.2%)、「たまに感じる」(13.6%)と合わせた『感じる』(16.8%)が1割台半ば超えとなっている。

(7) 悩みを相談する手段

悩みを相談する手段について聞いたところ、「対面相談（訪問相談を含む）」(50.1%)が約5割と最も高く、次いで「インターネットを利用して解決法を検索」(41.9%)が4割強と高くなっている。

(8) 「死にたい」と打ち明けられた時の対応

「死にたい」と打ち明けられた時の対応について聞いたところ、「ひたすら相手の話を聞く」(72.5%)が7割強と最も高く、次いで「解決策を一緒に考える」・「精神科など専門機関への相談を勧める」(46.5%)が4割台半ば超えと高くなっている。

(9) 自殺を考えたことの有無

自殺を考えたことの有無について聞いたところ、「考えたことがない」(68.3%)が7割近くと最も高く、次いで「考えたことがある」(21.0%)が2割強と高くなっている。

12. 地方との連携支援事業の区民認知度

(1) 連携支援事業の認知度

連携支援事業の認知度について聞いたところ、「知っているものはない」(48.4%)が5割近くと最も高く、次いで「姉妹都市(孺恋村・五城目町)交流」(32.5%)が3割強、「姉妹提携自治体などが参加するマルシェの開催」(26.4%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

13. 男女平等、人権

(1) 性別による不平等を感じることもあるか

性別による不平等を感じることもあるかについて聞いたところ、「あまり感じない」(33.9%)が3割台半ば近くと最も高く、「感じない」(18.4%)と合わせた『感じない』(52.3%)が5割強となっている。一方で、「感じる」(16.4%)と「ときどき感じる」(30.3%)を合わせた『感じる』(46.7%)が4割台半ばを超えとなっている。

(2) 人権が尊重されている社会だと感じるか

人権が尊重されている社会だと感じるかについて聞いたところ、「どちらかというと思う」(50.1%)が約5割と最も高く、「思う」(26.3%)と合わせた『思う』(76.4%)は7割台半ばを超えとなっている。一方で、「あまり思わない」(15.9%)、「思わない」(6.5%)を合わせた『思わない』(22.4%)は2割強となっている。

(3) 最も関心のある人権問題

最も関心のある人権問題について聞いたところ、「インターネットによる人権侵害」(19.0%)が2割弱と最も高く、次いで「女性」(17.4%)、「子ども」(16.5%)と続いている。

(4) LGBTQについて正しく理解したいと思うか

LGBTQについて正しく理解したいと思うかについて聞いたところ、「どちらかというと思う」(36.5%)が3割台半ばを超えと最も高く、「思う」(36.1%)と合わせた『思う』(72.6%)が7割強となっている。一方で、「あまり思わない」(18.8%)と「思わない」(7.2%)を合わせた『思わない』(26.0%)が2割台半ばを超えとなっている。

(5) 同性のパートナーの権利について

同性のパートナーの権利について聞いたところ、「思う」(40.5%)が約4割と最も高く、「どちらかというと思う」(36.0%)を合わせた『思う』(76.5%)が7割台半ばを超えとなっている。一方で、「あまり思わない」(15.2%)、「思わない」(6.7%)を合わせた『思わない』(21.9%)が2割強となっている。

14. 文化芸術

(1) 文化芸術イベントへの参加状況

文化芸術イベントへの参加状況について聞いたところ、「参加したことがない」(78.7%)が8割近くと最も高くなっている。一方で、参加イベントでは、「文化芸術の秋フェスティバル」(10.7%)が約1割と高くなっている。

(1-1) 参加していない理由

参加していない理由について聞いたところ、「どんな活動があるかわからない」(40.3%)が約4割と最も高く、次いで「時間に余裕がない」(37.0%)が3割台半ば超え、「参加方法が分からない」(22.1%)、「特に理由はない」(21.4%)が2割強と高くなっている。

15. スポーツ実施率やスポーツへの興味・関心

(1) 運動・スポーツを行う頻度

運動・スポーツを行う頻度について聞いたところ、「30分以上の運動を週2回以上」(35.5%)が3割台半ばと最も高くなっており、「週2回以上(時間は問わない)」(14.4%)、「週1回程度(時間は問わない)」(18.5%)を合わせた『週1回以上』(68.4%)が7割近くとなっている。

(1-1) この1年間に運動・スポーツを行った場所

この1年間に運動・スポーツを行った場所について聞いたところ、「道路・空き地」(39.2%)が4割弱と最も高く、次いで「民間商業インドア施設」(29.9%)が3割弱、「自宅または自宅敷地内」(27.1%)が2割台半ば超え、「公園」(23.9%)が2割台半ば近く、「公共スポーツ施設(学校施設含む)」(20.1%)が約2割と高くなっている。

(1-2) この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由

この1年間に運動・スポーツをほとんど行わなかった理由について聞いたところ、「仕事や家事で疲れている」(53.2%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「忙しくて時間がない」(45.7%)が4割台半ばと高くなっている。

(2) 地域での運動やスポーツ活動に期待する効果

地域での運動やスポーツ活動に期待する効果について聞いたところ、「健康・体づくり」(76.2%)が7割台半ば超えと最も高く、次いで「余暇時間の有効活用」(28.0%)が3割近く、「高齢者の生きがいづくり」(24.9%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(3) 千代田区民体育大会の認知度

千代田区民体育大会の認知度について聞いたところ、「知っているが、参加したことはない」(36.8%)が3割台半ば超えと最も高く、これに「知っていて、参加したことがある」(15.5%)、「知らないが、参加してみたい」(10.6%)を合わせた『知っていた、または参加の意思がある』(62.9%)は6割強となっている。一方で、「知らないし、参加するつもりもない」(35.9%)が3割台半ばと高くなっている。

(3-1) 千代田区民体育大会を知ったきっかけ

千代田区民体育大会を知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田(区の広報紙)」(61.5%)が6割強と最も高く、次いで「町会で聞いて」(28.8%)が3割近く、「家族や友人、知人から聞いて」(23.7%)が2割台半ば近くと高くなっている。

16. 自転車の交通安全

(1) 自転車利用者のヘルメット着用の努力義務化についての認知度

自転車利用者のヘルメット着用の努力義務化についての認知度について聞いたところ、「知っている」(81.0%)が8割強と最も高くなっている。

(2) 自転車乗車時のヘルメットの着用状況

自転車乗車時のヘルメットの着用状況について聞いたところ、「普段自転車を利用していない（自転車を持っていない）」(52.6%)が5割強と最も高く、次いで「ヘルメットを持っていない」(28.8%)が3割近くと高く、これに「ヘルメットを持っているが着用していない」(4.3%)を合わせた『着用していない』(33.1%)が3割台半ば近くとなっている。一方で、「いつも着用している」(6.1%)、「たまに着用している」(5.0%)を合わせた『着用している』(11.1%)は1割強となっている。

(2-1) ヘルメットを着用していない/持っていない理由

ヘルメットを着用していない/持っていない理由について聞いたところ、「努力義務だから」(40.4%)が約4割と最も高く、次いで「移動先での保管が不便だから」(36.1%)が3割台半ば超え、「髪型が崩れるから」(25.9%)が2割台半ば、「みんな着用していないから」(20.2%)が約2割と高くなっている。

(3) 自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向

自転車用ヘルメット購入補助事業の利用意向について聞いたところ、「知らなかったが、今後利用したい」(26.3%)が2割台半ば超えと最も高く、これに「知らないし、利用する予定はない」(19.2%)を合わせた『知らなかった』(45.5%)は4割台半ばとなっている。一方で、「知っていて、利用したことがある」(7.8%)、「知っていて、利用する予定がある」(10.9%)、「知っているが、利用する予定はない」(21.3%)を合わせた『知っている』(40.0%)と4割となっている。

(4) 自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況

自転車事故の損害賠償保険等の義務化の認知度と加入状況について聞いたところ、「知っていて、すでに加入している」(48.4%)が5割近くと最も高くなっており、これに「知っているが、まだ加入していない」(10.1%)、「知っているが、加入しているかわからない」(4.4%)を合わせた『知っている』(62.9%)が6割強となっている。一方で、「知らなかったが、すでに加入している」(7.2%)、「知らなかったし、まだ加入していない」(16.4%)、「知らなかったし、加入しているかわからない」(6.3%)を合わせた『知らない』(29.9%)が3割弱となっている。

(4-1) 加入している自転車事故の損害賠償保険等

加入している自転車事故の損害賠償保険等について聞いたところ、「他の保険の特約（自動車保険や火災保険等）」(54.2%)が5割台半ば近くと最も高くなっている。その他を具体的に回答とした方は7名おり、主に「民間保険会社の自転車保険」や「生協」が挙げられている。

17. 生物多様性

(1) 生物多様性という言葉の認知度

生物多様性という言葉の認知度について聞いたところ、「知っていた」(49.8%)が5割弱と最も高く、次いで「知らなかった」(30.0%)が3割と高くなっている。

(2) 生物多様性への関心の有無

生物多様性への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(56.3%)が5割台半ば超えと最も高く、次いで「大切とは思うが、関心はない」(25.3%)が2割台半ばと高くなっている。

(3) 生物多様性の保全活動等への参加経験

生物多様性の保全活動等への参加経験について聞いたところ、「活動を知らないし参加したくもない」(39.3%)が4割弱と最も高く、次いで「活動は知らなかったが参加してみたい」(34.1%)が3割台半ば近く、「活動は知っているが、参加したことはない」(21.9%)が2割強と高くなっており、これらに「参加したことがある」(2.0%)を合わせた『肯定的な意見』(58.0%)が6割近くとなっている。

(4) 区内の生物多様性に関する情報の取得媒体

区内の生物多様性に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(41.1%)が4割強と最も高くなっている。

18. 2050 ゼロカーボンちよだに向けた取り組み

(1) 「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度

「2050 ゼロカーボンちよだ」の認知度について聞いたところ、「聞いたこともない」(56.8%)が5割台半ばを超えと最も高くなっている。

(2) 脱炭素社会への関心の有無

脱炭素社会への関心の有無について聞いたところ、「大切なことで、関心がある」(57.7%)が5割台半ばを超えと最も高く、次いで「大切とは思いますが、関心はない」(24.0%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(3) 環境保全イベントや活動への参加経験

環境保全イベントや活動への参加経験について聞いたところ、「活動を知らないし参加したくもない」(45.8%)が4割台半ばと最も高くなっている。一方で、「活動は知らなかったが参加してみたい」(29.6%)が3割弱、「活動は知っているが参加したことはない」(20.8%)が約2割と高くなっており、この2つに「活動があることを知っており参加したことがある」(0.9%)を合わせた『肯定的な意見』(51.3%)が5割強となっている。

(4) 区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体

区内の温暖化対策や脱炭素に関する情報の取得媒体について聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(44.1%)が4割台半ば近くと最も高くなっている。

19. ウォーカブルやエリアマネジメント団体の取り組み

(1) ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度

ウォーカブルという言葉とウォーカブル事業の実証実験の認知度について聞いたところ、「いいえ」(82.9%)が8割強と最も高くなっており、「ウォーカブルの意味は知っているが、実証実験を行っていることは知らない」(11.0%)と合わせた『実証実験を知らない』(93.9%)が9割台半ば近くとなっている。一方で、「はい」(3.3%)と「ウォーカブルの意味は知らないが、実証実験を行っていることは知っている」(1.7%)とを合わせた『実証実験を知っている』(5.0%)が1割未満となっている。

(2) 公共空間（道路や公園など）で行われるイベントで期待するもの

公共空間で行われるイベントで期待するものについて聞いたところ、「大人向けイベント」(41.2%)が4割強と最も高く、次いで「特に無い」(35.2%)が3割台半ば、「子どもの遊び場」(29.8%)が3割弱と高くなっている。

(3) 地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待

地域とエリアマネジメント団体とが協力できる場への期待について聞いたところ、「はい」(58.9%)が6割近くと高く、一方で、「いいえ」(37.3%)が3割台半ばを超えている。

(4) 協働したいエリアマネジメント団体

協働したいエリアマネジメント団体について聞いたところ、「民間企業が主導の団体」(52.1%)が5割強と最も高く、次いで「地域住民が主導の団体」(51.3%)が5割強、「行政が主導の団体」(40.4%)が約4割、「有識者、専門家が主導の団体」(35.7%)が3割台半ばと高くなっている。

20. 川に架かる橋およびその周辺の有効活用

(1) 震災復興橋梁の認知度

震災復興橋梁の認知度について聞いたところ、「知らない」(79.9%)が8割弱と高くなっている。

(2) 橋への期待

橋への期待について聞いたところ、「災害に強い橋」(74.2%)が7割台半ば近くと最も高く、次いで「快適な歩行者空間」(54.3%)が5割台半ば近く、「文化・歴史の継承」(45.3%)が4割台半ばと高くなっている。

(3) 橋をライトアップすることの認知度

橋をライトアップすることの認知度について聞いたところ、「知らないので、見たことはない」(59.7%)が6割弱と最も高く、「知っており、見たことがある」(28.5%)と「知っているが、見たことはない」(9.6%)を合わせた『知っている』(38.1%)が4割近くとなっている。

(3-1) 橋のライトアップに関する知識

橋のライトアップに関する知識について聞いたところ、「夜間景観の向上」(86.9%)が8割台半ばを超えと最も高く、次いで「賑わいの創出」(43.2%)が4割台半ば近く、「人の回遊性の向上」(34.6%)が3割台半ば近くと高くなっている。

(4) 橋の活用のために必要な取り組み

橋の活用のために必要な取り組みについて聞いたところ、「橋のライトアップ(回遊性・賑わい・景観の向上)」(44.3%)が4割台半ば近くと最も高く、次いで「特に無い」(28.0%)が3割近く、「橋を利用した眺望のPR」(26.1%)が2割台半ばを超え、「夜橋と他の文化資源を活用した観光ツアー」(25.5%)が2割台半ばと高くなっている。

21. ポータルサイトの利用状況

(1) 千代田区ポータルサイトの認知度

千代田区ポータルサイトの認知度について聞いたところ、「知らない」(51.3%)が5割強と最も高くなっている。一方で、「知っているが利用したことがない」(25.3%)と「知っていて、利用したことがある」(21.5%)とを合わせた『知っている』(46.8%)が4割台半ばを超えとなっている。

(1-1) 千代田区ポータルサイトを知ったきっかけ

千代田区ポータルサイトを知ったきっかけについて聞いたところ、「広報千代田（区の広報紙）」(60.4%)が約6割と最も高く、次いで「区のホームページ」(40.6%)が約4割と高くなっている。

(1-2) 千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由

千代田区ポータルサイトを利用したことがない理由について聞いたところ、「オンライン申請したい手続きがない（利用できる手続きがない）」(48.4%)が5割近くと最も高く、次いで「アカウント登録が面倒」(31.1%)が3割強、「個人情報の取り扱いが不安」(24.0%)が2割台半ば近くと高くなっている。

(2) 登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度

登録すると区から必要な情報がポータル上で届くことの認知度について聞いたところ、「知らない」(45.7%)が4割台半ばと高くなっている。一方で、「知っている」(29.8%)が3割弱となっている。

(3) 千代田区ポータルサイトに欲しい機能

千代田区ポータルサイトに欲しい機能について聞いたところ、「問い合わせに対応してくれるチャット機能」(53.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「FAQやヘルプセンターの充実」(40.2%)が約4割と高くなっている。

22. デジタル機器の活用状況

(1) デジタル機器の利活用への支援の必要性

デジタル機器の利活用への支援の必要性について聞いたところ、「必要としていない」(78.1%)が8割近くと最も高くなっている。

(2) デジタル機器利活用支援について望まれるあり方

デジタル機器利活用支援について望まれるあり方について聞いたところ、「相談窓口の設置」(31.0%)が3割強と最も高く、次いで、「定期的なスマホ講習会の開催」(26.3%)が2割台半ばを超えと高くなっている。

23. 区民の防災対策

(1) 地域の避難所の認知度

地域の避難所の認知度について聞いたところ、「知っている」(75.0%)が7割台半ばと高くなっている。一方で、「知らない」(23.9%)が2割台半ば近くとなっている。

(2) 家具等の安全対策の実施状況

家具等の安全対策の実施状況について聞いたところ、「一部の家具等にしている」(55.6%)が5割台半ばと最も高く、「すべての家具等にしている」(14.6%)と合わせた『安全対策をしている』(70.2%)が約7割となっている。一方で、「まったくしていない」(28.7%)が3割近くとなっている。

(3) 自宅周辺の災害リスクの認知度

自宅周辺の災害リスクの認知度について聞いたところ、「知っている」(70.7%)が約7割と高く、一方で、「知らない」(28.3%)が3割近くとなっている。

(4) 災害時の避難方法

災害時の避難方法について聞いたところ、「在宅避難」(63.9%)が6割台半ば近くと最も高くなっている。また、「避難所への避難」(25.8%)が2割台半ばと高く、「縁故避難(親戚や知人宅への避難)」(3.4%)と合わせた『在宅以外への避難』(29.2%)が3割弱となっている。

(5) 災害に備えた備蓄状況

災害に備えた備蓄状況について聞いたところ、「飲料水」(80.1%)が約8割と最も高く、次いで「懐中電灯」(71.6%)が7割強、「食料品(米・缶詰・ビスケット・レトルト品等)」(71.2%)が7割強、「携帯トイレ」(56.2%)が5割台半ば超え、「携帯ラジオ」(43.9%)が4割台半ば近く、「ハミガキ・タオル」(43.6%)が4割台半ば近く、「薬品類」(39.9%)が4割弱、「カセットガスコンロ」(39.5%)が4割弱、「給水用ポリ袋」(24.4%)が2割台半ば近く、「ヘルメット」(22.7%)が2割強と高くなっている。

(5-1) 備蓄量

“飲料水”について聞いたところ、「3日分～6日分」(49.1%)が5割弱と最も高く、次いで「1日分～2日分」(38.2%)が4割近くと高くなっている。

“食料品”について聞いたところ、「3日分～6日分」(52.8%)が5割強と最も高く、次いで「1日分～2日分」(35.9%)が3割台半ばと高くなっている。

“携帯トイレ”について聞いたところ、「3日分～6日分」(42.9%)が4割強と最も高く、次いで「1日分～2日分」(41.0%)が4割強と高くなっている。

(6) 災害発生時に知りたい情報

災害発生時に知りたい情報について聞いたところ、「電気・水道等のライフラインの情報」(81.0%)が8割強と最も高く、次いで「被害の状況」(72.2%)が7割強、「災害の規模や気象情報」(72.1%)が7割強、「家族や知人の安否情報」(65.0%)が6割台半ば、「道路や鉄道の状況」(63.5%)が6割台半ば近く、「避難所等の開設状況」(58.6%)が6割近くと高くなっている。

(7) 災害時に情報を取得する媒体

災害時に情報を取得する媒体について聞いたところ、「テレビ」(68.9%)が7割近くと最も高く、次いで「ラジオ」(42.7%)が4割強、「区公式LINE、X、Facebook」(37.5%)が3割台半ば超え、「各機関のHP」(37.3%)が3割台半ば超え、「防災行政無線」(26.7%)が2割台半ば超えと高くなっている。